

学校だより

3月号

やさしい子 たくましい子 考える子



黒門

発行日 令和7年2月28日
発行者 台東区立黒門小学校
校長 飯塚 雅之

一月往ぬる、二月逃げる、三月去る(いちげついぬる にげつにげる さんげつさる)

校長 飯塚 雅之

「一月往ぬる、二月逃げる、三月去る」とはよく言ったもので、今年度もあと一か月を残すのみとなりました。これは、正月から三月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことを意味しています。

それでも、一月の最初の音「イ」を使って「いぬる(往ぬる)【行く】」、二月の「ニ」の音を使って「にげる(逃げる)」、三月の「サン」の音を使って「さる(去る)」というように言葉遊びの要素が入った表現でもあり、昔の人は慌ただしい中でもそれを楽しむ余裕があったんだなど感心してしまいます。

それぞれの学年のまとめをしっかりと行って、一日一日を悔いのないよう過ごすことができるよう励ましていきます。保護者、地域の皆様には、一年間本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

憧れに向かって飛ぶ、情熱の矢となれ ニーチェ



この「飛んでいる矢」を頭でイメージしてみます。その姿は、勢いよく、エネルギーに満ちあふれているように思えます。人間は、このエネルギーに満ちた「飛んでいる矢」であることが大切です。

しかし、この矢は見事に的を射るのでしょうか。ここでは、的に当たるか当たらないかは関係ありません。「結果」ではなく「プロセス(過程)」こそが大事だからです。

今年度の卒業式は、3月24日(月)に挙行いたします。63名の児童がこの黒門小学校を巣立ってきます。卒業生には、この「飛んでいる矢」となり、未来に向かって飛び続けてほしいと願っています。

そして、時々「自分は今、飛んでいる矢であるか」と自分に問いかけ、常に、エネルギーに溢れたチャレンジャーでいてほしいと思います。卒業おめでとうございます。